

平成 30 年度 第 3 回萩市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：平成 30 年 11 月 22 日（木）10：00～12：00

場 所：萩市役所 大会議室

1. 開会

【事務局】定刻になりましたので、ただ今より、第 3 回萩市地域公共交通会議を開催致します。まず、本日は全委員 26 名のうち、代理出席も含めて 23 名の委員が出席されていますので、会議の成立要件を満たしていることを報告させていただきます。また、会議は前回と同様に公開とし、議事録等についても基本的に HP 等で公開とさせていただきますので、ご了承をお願い致します。

2. 会長あいさつ

【会 長】本日は、委員の皆様におかれましては、お忙しい中、又、雨が降り足元の悪い中、本会議にご出席いただきまして誠に有難うございます。

萩市の今後の公共交通網を形成するという事で開催しておりますこの会議も、今回で 3 回目となります。4 月と 5 月に第 1 回目と第 2 回目の会議を開催し、夏場にかけて市民アンケート調査や実際にバスに乗り込んで利用実態調査を進めてまいりました。

本日は、そうした調査結果の概要を説明し、調査結果等を踏まえた計画の基本方針（案）について協議をお願いしたいと考えております。皆様ご承知の通り、萩市におきましては、とりわけ高齢化が進展しており、高齢者の足の確保が大きな課題となっています。又、最近では、須佐・田万川地域におけるタクシー事業からの撤退という話もございます。そうした状況の中で、地域の足の確保については、待ったなしの状況であると認識しております。そうした中で策定する地域公共交通網形成計画については、住民、とりわけ高齢者の足の確保をどう図っていくのか、又、一方では、利用者の減少や運転士の不足など公共交通事業者を巻き込む環境も厳しく、今後、持続可能な公共交通を形成し、体系づけていくことが大きな喫緊の課題であります。

そうした観点を踏まえて、本日は、委員の皆様のご意見をいただきながら、今後の事業進捗を図ってまいりたいと考えております。本日は、宜しくお願い致します。

3. 議事

（1）市民移動実態調査の結果報告について（資料 1）

【事務局】資料１に基づき説明（省略）

【会 長】只今の事務局からの説明に関しまして、ご質問やご意見等がございましたら、宜しく願い致します。

（質問や意見が特になし）

それでは、資料２も「公共交通の利用実態調査の結果報告について」ですので、資料１「市民移動実態調査の結果報告について」と併せて、ご質問やご意見等をしていただくという事で進めさせていただきたいと考えます。

（２）公共交通利用実態調査の結果報告について（資料２）

【事務局】資料２に基づき説明（省略）

【会 長】只今の事務局からの説明に関しまして、ご質問やご意見等がございましたら、宜しく願い致します。

【副会長】ぐるっとバスの調査について確認させていただきたい。デマンド便の乗車は、実際に運行したものだけか？

【事務局】そのとおりです。

【稲原委員】アンケート調査等の結果報告があったが、これをどういった方向に持って行こうとしているのか？アンケートをやりました、結果はこうでしただけではダメ。一方通行になる。

【事務局】そのとおりで、この結果をもとにこれから資料３で説明します。

【会 長】アンケート調査等の結果を計画の基本方針（案）にどのように反映させるのかというのが、本日の主な議題ですので、宜しく願いします。

（３）公共交通の現状と課題及び萩市地域公共交通網形成計画基本方針（案）について（資料３）

【事務局】資料３に基づき説明（省略）

【会 長】只今の事務局からの説明に関しまして、ご質問やご意見等がございましたら、宜しく願い致します。

ら、宜しくお願い致します。

【副会長】4点ほど、質問とご提案があります。先ず1点目は質問になりますが、須佐・田万川地域の広域幹線は、J R山陰線と石見交通が担っていますが、この2つの役割分担をどのように考えているのか、ご教示ください。

2点目は提案になりますが、運行が重複する路線等の見直しに関して、効率性を考慮するのは当然のことですが、効率性だけではなく、交通結節点がきちんとしていないと意味がありません。また、交通結節点では、待合環境を整備することが重要になってくる。逆の言い方をすれば、トイレなどの待合環境が整ったところが交通結節点に向いているとも言える。路線の見直しに際しては交通結節点の概念も忘れないでいただきたい。

3点目も提案になりますが、事務局におかれては十分ご承知のことと思いますが、他市に跨る広域幹線を見直す場合には、他市との調整が必要になる。他市に跨る広域幹線であるから、国や県の補助対象となり、萩市のみの財政負担を考慮するだけではダメ。山口市との路線をみていると、山口市での利用者が多く、そのことで路線全体の収支率が良くなっている路線もある。そうした点も踏まえて、路線バスの見直しを検討していただきたい。

4点目は質問になりますが、ぐるっとバスの見直しの方向性が打ち出されているが、何を見直しの基準とするのかご教示いただきたい。無料だから、収支率は見直しの基準にはならないと考えます。利用者数も、人口密度が低い地域だと利用者数も少ないのは、ある意味当然のことであり、何を基準に判断するのか？2点目と3点目は提案ですので、1点目と4点目についてご教示ください。

【事務局】1点目のJ R山陰線と石見交通との役割分担についてですが、現段階で個別具体的な案は持ち合わせておりません。今後、基本方針（案）に基づき、対応策を検討する中で、行政だけではなく、交通事業者・住民と一緒に考えていきたいと思えます。また、4点目のぐるっとバスの見直しの基準についてですが、教授の仰られるとおり無料ですので収支率では判断できません

先ずは、1便あたりの乗車密度が1人にも満たない路線は、人口密度が低いからなのか、運行形態や運行区域、或いは、運行ダイヤに問題があるからなのか、様々な観点から判断していきたいと考えています。

【事務局】補足ですが、1点目のJ R山陰線と石見交通との役割分担と言います

か、利用特性については乗降調査の結果、ＪＲ山陰線は高校生が通学で利用する傾向が強く、駅から徒歩又は自転車で通学されています。石見バスは益田市の日赤病院前まで行くので、ＪＲよりも運賃は高いのですが、歩かなくてすむため高齢者の通院での利用が多く見られます。また、ご提案いただいた幹線と支線の交通結節点についてですが、道の駅や総合事務所などが考えられますので、今後、検討する際に参考にさせていただきます。

【副会長】ＪＲ山陰線と石見交通の利用特性がよく解りました。また、計画を策定する際に市の中心部と周辺部とでは、地域特性が違うということに留意しながら策定していただきたい。

【秋本委員】公共交通のマスタープランとなる地域公共交通網形成計画の策定にあたり、国の指針として①利便性を高める②持続性を高めるという２点を掲げています。高齢者や学生だけではなく、持続性を高めるために勤労世代に対しても利用促進を図っていただきたい。

【事務局】委員ご提案のとおり、計画の中にモビリティマネジメントの要素を取り入れてまいります。

【会 長】本日、示させていただいた基本方針（案）について何か意見がございますでしょうか？ないようであれば、資料３に示した基本方針（案）に基づき、今後計画の素案を検討していくということで宜しいでしょうか？
最後に、事務局から今後のスケジュールについて説明をお願い致します。

【事務局】今後、市報等でお知らせいたしますが、先ず来年２月に総合事務所管内の地域意見交換会を小学校区単位で開催する予定にしております。また、第４回目の交通会議も２月末に開催予定です。

【大田委員】来年２月に地域意見交換会を開催するとのことだが、対象者をどのように考えているのか？

【事務局】市報やＨＰで幅広く参加を呼びかける予定にしており、特に対象者を絞るということは考えていません。

【山本委員】萩地域の意見交換会も大井・三見・離島などで開催していただきたい。社会福祉協議体の話し合いの中でも、交通の話は頻繁に出ており、離島は島内交通自体が存在しない。ぜひとも、こういった地域でも意見交換会を開催していただきたい。

【事務局】萩地域でも小学校区単位での地域意見交換会を考えています。また、離島に関しては、現在、相島の新船建造に係る航路改善協議会を設置しており、今後3島の島民に対するアンケート調査及び意見交換会を開催する予定にしております。

4. その他

【会 長】その他、会議全般にかかることでも構いませんが、何かご意見等はございますでしょうか？ないようであれば、本日の議事は終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

5. 閉会

【事務局】委員の皆様には、長時間にわたりご協議いただき、まことに有難うございました。本日いただいたご意見も参考にしながら、今後、素案をとりまとめてまいります。今後、開催する意見交換会に多くの方に参加していただきたいので、委員の皆様におかれましても、地域での呼びかけをお願いしたいと思います。本日は、有難うございました。